

○台風18号情報（10月3日 12時現在）

台風18号の情報を9月30日に提供しましたが、その後、台風の進路が北よりに変わってきています。そのため、当初予想していた影響が変わってきていますので、最新の情報を提供します。

当初、16号レベルの影響が予想されていましたが、進路が北寄りになり、対馬海峡付近を通過する予想になりましたので、本県にとっては、直撃を免れ、影響も限定的になると見込んでいます。

1 進路予報

気象庁の予想進路では、昨夜の時点で、4日の深夜に九州北部に接近・上陸の予想でしたが、依然として太平洋高気圧の勢力が強く、九州から日本海沿岸を覆っている状態です。そのため、台風18号は九州への接近が西回りで、対馬海峡から日本海沿岸を進み、加速しながら北陸地方に向かい、その後、温帯低気圧に変わる見込みです。10月としては珍しいコースになります。

進路については、米軍台風センター予想コース、ヨーロッパ中期予報センター予想コースとも同じコースで揃ってきました。サブハイ、北の高気圧の勢力が大きく変わらない限り、現在の予想進路で進むものと予想しています。

2 勢力

10月3日12時時点で、中心気圧925hPa、最大風速50m、最大瞬間風速70m、暴風半径（風速25m以上）130km、強風半径北東側280km、南西側330kmで非常に強い勢力で最盛期を迎えています。

今後、九州西海上で940hPa、45m。そして5日9時に対馬海峡付近で970hPa、35mと強い勢力になります。

台風の規模としては、小型ですが、16号と同じで中心付近が通過する地域は、激しい暴風と猛烈な雨が予想されます。特に暴風圏に入る進行方向の右側で大きな影響が出ます。

3 影響

予想進路で進んだ場合、北部山沿いが一部暴風圏にかかる可能性があります。なお、強風圏には全域が入る見込みです。

(1) 風の影響

宮崎県北部：最大風速15～20m、最大瞬間風速25～30m。

宮崎県南部：最大風速10～15m、最大瞬間風速20～25m。

ただし、北部山沿いが暴風圏に入った場合は、予想より強くなる場合があります。

(2) 雨の影響

現在、台風は雲の組織（スパイラルバンド）がしっかりしています。

そのため、今後中心が外れても、台風の南側に入る本県では、4日の午後から5日未明にかけて大雨が降りやすい状態になりますので、大雨に対する嚴重な警戒をお願いします。特に16号で洪水、浸水被害土砂崩れのあった地域では、最新情報に基づいて必要な対策をしてください。

宮崎県北部：5日までに150mm、多いところで200mm。

宮崎県南部：5日までに100mm、多いところで150mm。

(3) 農作物への影響

今回の台風18号では、進路が北寄りになり、暴風圏に入る可能性が低くなっていますので、16号よりも影響は低いと予想されます。

普通期水稻では、黄熟期から収穫期になっていますので、まだ収穫されていない場合は、品質が低下しないよう十分注意してください。

ハウス関係は、現在の予想であれば耐風性の問題はないですが、これからビニールを張る場合は、念のため5日午後以降に実施してください。

露地野菜は、暴風はないものの、強風が吹きますので、防風対策をしてください。

4 その他

台風18号の通過後は、夏の空気から秋の空気変わってきますので、気温がようやく下がってきます。これまで、平均気温は平年寄り2～3度高い傾向が続いてきましたが、6日頃から平年並みになってきます。急激な温度低下は、農作物への影響が懸念されますので、今後の温度変化に備える必要があります。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二（気象予報士）